

シリンジ型注射器を用いて自己注射を行った患者の不安感の比較

医療法人 三慧会 IVF なんばクリニック ○佐野 郁美、 廣納 愛華

I. 緒言 排卵誘発剤の注射に通院する負担は大きい。患者負担軽減のため在宅自己注射を導入する施設は多く、ペン型注入器が多く用いられている。しかし、当クリニックではペン型注入器に対応できていない薬剤に対し、シリンジ型の在宅自己注射の指導も行なっている。精神的負担はペン型注入器とシリンジ型注入器を比較し、ペン型注入器が減少すると言われているが 1) 今回はシリンジ型注入器に着目し自己注射を経験する前と後の不安の程度について比較検討し内容を明らかにすることを目的とした。

II. 方法

1. 期間 2014 年 2 月 7 日から 2014 年 5 月 9 日まで
2. 対象 当院で排卵誘発剤を行う目的で自己注射の希望があり在宅自己注射の集団指導を受けた患者 82 名。
3. 自己注射を行うそれぞれの場面での不安について在宅自己注射を経験する前後について比較、検討した。アンケート調査により、対象者には口頭による研究協力の同意を得て、無記名とし個人が特定できないよう倫理的配慮のもと集計を行なった。なおアンケートにはペインスケールでよく用いられ視覚アナログ尺度である Visual Analogue Scale (VAS) を使用した。

III. 結果 回収 82 名中 50 名。なお、排卵誘発剤を使用する目的以外のものは対象外とした。

患者背景は平均通院時間 92.4 分。平均往復交通費 1027 円。在宅自己注射の平均日数は 5.4 日。自己注射を選択した理由は「通院に時間がかかる」が一番多かった。

不安に関する各質問の内、在宅自己注射経験前と後を比較し減少した項目は 11 項目中 9 項目であった。中でも減少した項目、増加した項目はそれぞれ「針を刺す時」「アンプルで薬液の準備をする時」であった。

IV. 考察 不安は全体的に在宅自己注射経験後の方が減少していた。減少した項目の理由は、「針を見た時」「針を刺す時」など回数をこなすことでの“慣れ”により軽減したと考えられた。しかし、予想以上に増加している項目もあり、患者の不安は内容によっては在宅自己注射経験後にも増加していた。不安が消えなかった、もしくは増加した背景は、通院に時間がかかるという理由から、仕方なく在宅自己注射をすることになった可能性も考えられた。不安の原因が何なのかを知り、適切な指導を実施するために不安についての検討が必要である。また実際に集団指導を体験することで、患者にとって本当に在宅自己注射を選択するかという材料になっていた。

V. 今後の課題 このアンケート結果により集団指導を行った後も減少するとはいえ、患者は不安の中在宅自己注射を行っていることが明らかとなった。今後項目別に抽出し不安が増加した項目に対し不安が軽減できる指導方法を検討していく必要があると考える。

文献 1) 蔵元武志 村上貴美子：生殖医療における在宅自己注射支援，日本生殖看護学会学術集会誌 2011 P14